

第2回新川子ども屋内レクリエーション施設の整備に関する検討会 主な意見

日 時:令和3年7月29日(木)15:00~17:00

場 所:県庁4階大会議室

<主な意見>

- ・文化ホールとの連携は大事だが、既存ホールの運営自体を変えることを考えるのか。施設を単体で片方だけ議論するのではなく、一体として考えないといけないのではないかな。
- ・色々な遊具を組み合わせる運動体験できるもの、運動感覚が育つものを希望する。
- ・4~5年のスパンだとデジタル化の先は見通せない。
- ・総論は良いが、各論の議論をどうやっていくか、その仕組みを考えないといけない。事業者中心で考えるのか、有識者や地元の方がどのように絡むのかなど。
- ・DXを使って利用履歴などの情報をとり、その情報を事業者だけではなく県で把握できる体制が必要。
- ・遊びを後押しするスタッフ、プレイリーダーが大切。スタッフは重要だが、その人材を探し出す、育成するのが大変な課題。
- ・施設的には、是非「水」を使ったものを考えてほしい。
- ・子どもが育つ、遊ぶ、学ぶ権利を保障する場所を整備するという考えでいうと、民間で、有料でというのは、少し違和感がある。県外から人を呼ぶという視点もあるが、目の前の富山の子が育つ視点が大事。
- ・外と一体で考えていく一例として、藤幼稚園(立川市)が参考になる。
- ・いろいろな感覚を刺激することがよい。アートの要素は大事で、「遊びとアート」とのキーワードは良い。
- ・インクルーシブな空間、多様性を大事にした施設が実現できたらよい。
- ・子どもや親など当事者性をもった運営(企業だけでなく、地域・NPO等)の方向性も考えるべきではないか。
- ・素敵な屋内施設をつくって、逆に子どもの自然離れが加速するのではないかな。アウトドア、大自然を疑似体験できる施設なら、富山県につくる意味があるのではないかな。
- ・子どもが思いっきり遊べるもの、使う人達が欲しいものを、持続できる形で造ってほしい。
- ・新川文化ホールの特徴である「音楽」と楽しむ施設というのも独自性があってよい。
- ・スタッフには保育士など子育て経験豊かな人材も入れるとよい。
- ・子どもの運動面の動きを促すには遊び、仕掛けが必要。いろいろな年齢層にあった「してみたい、やってみたい」を選択でき、いろいろとチャレンジでき、いろいろな能力を高められる施設がよい。
- ・芸術性のある既存ホールの空間と、新施設がうまく融合するような距離感や施設のつながりが実現できれば、子どもの声心地よく聞こえる空間となり、親世代、祖父母世代もリラックスできる施設になる。
- ・一緒にくる兄、姉世代も楽しめるワークショップやイベントが日々開催されている場所になればよい。
- ・アンケート結果には同感。しかし、子どもの遊びはすぐ変わる。
- ・究極のハコもの、何もないハコを作ってはどうか。子どもの視点と同じく、民間、企画側のニーズや使いやすさを調べてほしい。火や水を使うことができる、24時間使うことができるか、そんな施設にできないかな。
- ・夏は暑く、雨の日も遊ぶところが少なく、子どもの運動不足が懸念。屋内で遊べる施設への期待は大きい。
- ・料金は取った方がよい。2~3回で元を取れる程度のシーズンパスなら負担感はなく、リピートにもつながる。
- ・芸大、音大の卒業生が地元に戻って来て活躍の場がない。例えば、そういう人にスタッフとして入ってもらって、「子ども達を育てる」という観点で若い人の活躍する場を作ってあげることができればよいと思う。
- ・要望の原点は、悪天候時に子どもの遊ぶ環境が少ないということ。1年前の市の若手PTの発表にもあったが「富山の自然を大冒険できる未来のある遊び場」をベースにして考えていただければいいと思う。

- ・ターゲットは案どおりで良い。重要なのは安全性。思い切り体を動かせる施設にしてほしい。文化ホールの音楽やダンスなどの蓄積、それを教える人、そういったものを活かせる環境を整えてほしい。
- ・公共が全て丸抱えする時代ではなく、意欲ある子育て世代が参画できるものがよい。
- ・できれば、あまり遅くならないうちに実現してほしい。
- ・非認知能力の形成で大事なポイントは、①子ども自身の目標があり、②それに向けて工夫の余地があり、③他の人と一緒に協力しながらやること。そういう条件が整う遊具、遊び方をもつことが大事。
- ・運動場を単に屋内化するのではなく、普段やらない動きが促されるような作り方が大事だし、創造性の点では、新たに創り出す、組み合わせる、ルールどおりではなく違うやり方が可能になる、そのようなものがよい。
- ・自然との組合せ(屋内への取入れ、中から見渡せる)など、一種の「環境アート」のようなものがあるとよい。
- ・ICTを使うと遊びが一段飛躍するので良い。考えるべきはメンテナンスと入替え。二次元のものを動かすと三次元のリアルなものが動く、現実にあるものとのつながりが感じられるものがよい。
- ・中高生・大学生が、職場体験にとどまらず、もっと積極的に運営や遊びコーナー等を担うことを望む。「この場を自分たちの力で創り出す機会」を与えると、いろいろな世代がそこに関わる方向に進むのではないか。
- ・魅力的なものを子供に提供して、知ってもらい、キッカケや出会いの提供が重要。
- ・年代の違うお兄さん、お姉さん達と関わって自分もこんな風になりたいということを経験することも大事。
- ・本当に何が子どもを育てるのかを改めて検討し、必要なものをシンプルに、スリム化していくことが必要。
- ・コロナ禍において、この施設が、子ども達が今抱える課題の突破口になり、特にストレスが大きい母親が子どもと一緒に互いに育ちあうキッカケになればよい。
- ・五感を刺激することに加え、そこに人とのコミュニケーションによる感情が伴うことが大事。
- ・民間のいろいろなノウハウもあり、それらを導入するのも良いが、採算重視はいかがなものか。福祉や教育、医療などに利益の概念が入ってくると違和感がある。
- ・幅広い体験の中から将来目指す方向を見つけていくことが、壁や困難にぶつかったときに、生き抜く力、乗り越える力を育むと思う。この施設が、子どもの脳や心を育む場になってほしい。
- ・パンデミックで人が集まらない事態。一方で物理的に集まる大切さも痛感。コロナが収まった時にこういう施設がある意味は大きい。
- ・ウィズパンデミックを考えると、離れたところでも一緒に体感できる、活動できることがある。この施設を拠点として、施設に行けない人にも提供できるプログラムがあるとよい。ICTはいろいろとサポートできる。
- ・景観の邪魔にならないように半分地下にするとか、外に土をもって庭園のようにして高低差で遊ぶとか、いろいろ考えられる。中と外が全部融合されて、その全体を施設として捉え、そこでどんなことができるかを考えれば、一つのハコよりもっと広いイメージが広がっていくのではないか。
- ・今の時代は、シェア。タイムシェアが大事。子どもが来られない時間に違う人に貸すとか、いろいろ組み合わせで24時間収益を生むようにすることも考えないと、いずれ経営は息詰まるのではないか。

<座長まとめ>

- ・地域の色々な世代から施設を担う人材をうまく発掘していくプログラムを工夫していくことが大事。
- ・自然をいかにうまく活かすか。そこから遊具のイメージ、全体の施設のイメージが固まってくる。
- ・どうやって施設を使うか、空間イメージによって中身も変わってくる。物理的な空間をどう計画するか、それにより利用プログラムがかなり関わってくるので、これから先の進め方で留意が必要。
- ・子どもが使わない時間の利用など、複合用途を考えるのか、考えないのか。経営的に成り立つのか、民間の知恵を活用するにあたって、大きなヒントになる。
- ・全体として、方向性に異論はなかった。今後、本日の議論を踏まえて基本構想的なものを固めていく。